

積み重ねた思い出が一枚一枚と抜け落ちていく――
残されたカメラには知らない男の写真。
40年を経た夫婦のさよならと始まりの物語。

オレの人生、

なん・た・ん

下元史朗 烏丸せつこ

佐野和宏 和田光沙 吉岡睦雄 外波山文明

三島ゆり子

6/7㊤以降、
山岸晋平監督・
プロデューサー等による
トークイベント開催予定!!

企画・監督：山岸晋平 プロデューサー：寺脇研 脚本：中野太 音楽：下社敦郎
助監督：富田大策 撮影：山村卓也 照明：神野誉晃 録音：篠崎有矢 美術：三藤秀仁 衣装：米村和晃 メイク：木内香瑠

デザイン：成瀬慧 配給：太秦 2021年 日本 DCP カラー アメリカンビスタ ステレオ 107分 ©なん・なんだ製作運動体

nan-nanda.jp





下元史朗&鳥丸せつこ ダブル主演で紡ぐ——

残された時間の中で、自分を取り戻そうと懸命に生きる人々の物語

10年ほど前、自殺しようとしていたおじいさんを止めた経験から、老いた人間の残された時間の生き方についていつか描きたいと考えようになった、という監督の思いが一本の映画として結実した。

結婚してもうすぐ40年になる三郎と美智子。ある日、文学講座に行くときに出かけた美智子が交通事故に合い昏睡状態に。途方に暮れる中、美智子の趣味だった残されたカメラを現像してみると見知らぬ男の姿が映っていた。困惑した三郎は娘の知美とともに、浮気相手探しの旅を始める——。



メガホンを取るのは、前作『テイクオーバーゾーン』(19)において東京国際映画祭で、その才能を高く評価された山崎晋平。誰にでも訪れる「老い」や「夫婦」であること、「家族」であることを題材にした監督の原案を妻の秘密に触れ、そこから過去を辿っていく夫という40年を経た夫婦のさよならと始まりの物語に昇華させたのは、『戦争と一人の女』(12)や『さよなら歌舞伎町』(14)を手がけた脚本家の中野太。全編を支える柱である夫の三郎の哀愴を見事に演じきるのは、『痛くない死に方』(20)での好演が記憶に新しい下元史朗。ピンク映画史上の最高傑作『襲られた女』(81/高橋伴明)など数々の業績を残してきた名優が、妻への不審に心を揺らす男の哀しみを見せてくれる。妻・美智子には、『四季・奈津子』(80)で日本アカデミー賞の優秀主演女優賞を受賞し、近年はNHK連続テレビ小説「スカーレット」でも、その存在感を確かなものにした鳥丸せつこ。本作ではW主演として、長年連れ添った妻の部分と女である部分を見事に演じきっている。娘役に『岬の兄妹』(19)にて、高崎映画祭最優秀新進女優賞を受賞した和田光沙。さらに脇を固めるのは、喉頭癌手術で声帯を失うも、『バット・オンリー・ラヴ』(16)で監督、主演復帰を果たした佐野和宏。日本映画の全盛期から現在まで役者人生を貫く名女優、三島ゆり子。まさに実力派俳優がそろって、若手監督の新しい一歩を支える。

本作が描くのは、年を重ねながら生きていく男と女が、自らに「何なんだ!」と苛立ったり、「何なんだ?」と迷いながら道を探しあぐね、それでも「(そんなもん) なんなんだ!」と、その先に見えてくる光を掴もうとする姿である。



なんなんだ



2021年/日本/DCP/カラー/アメリカンビスタ/ステレオ/107分

Twitter: @nan_nanda0115 nan-nanda.jp

6/2(木)より東京アンコール上映決定!

6/2(木) - 5(金) 13:00、6/7(土) - 15(日) 15:30 休館日: 6/6(金)、6/13(日)

〈料金〉一般 1,800円 シニア 1,200円 学生 (大学・専門学校)、高校生以上 1,500円
中学生以下 (3歳以上) 1,200円 障害者手帳をお持ちの方 (介護者2名まで) 1,200円

JR 恵比寿駅東口改札より徒歩7分、地下鉄日比谷線
恵比寿駅より徒歩10分 恵比寿ガーデンプレイス内
東京都写真美術館ホール

03-3280-0099 (代表) www.topmuseum.jp

